令和7年生駒市教育委員会第7回定例会会議録

1 日 時 令和7年7月15日(火) 午前9時30分～午前10時46分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第12号 臨時代理につき承認を求めることについて(熱中症予防・対応マニュアルの改定について)
- (2) 報告第13号 令和7年生駒市議会第4回(6月)定例会提出議案の結果について
- (3) 議案第22号 生駒市文化財保護審議会への諮問について
- (4) 議案第18号 令和7年度生駒市社会教育委員の活動の点検及び評価について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育部長	松 田 悟	生涯学習部長	坂 谷 操
教育総務課長	山 本 英 樹	学校給食センター所長	山 本 芳 和
教育指導課長	花 山 浩 一	幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美
幼保こども園課指導主事	長 崎 文	児童総務課長	石 田 昌 代
生涯学習課長	甫 田 和佳子	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	松 田 美奈子	教育指導課課長補佐	中 田 博 久
教育政策室長	杉 山 史 哲	こども園準備室長	澤 辺 誠
図書館南分館長	中 川 公 子	図書館北分館長	谷 江 真美子
生駒駅前図書室長	入 井 知 子	教育総務課(書記)	土 井 智 史
教育総務課(書記)	寺 川 寧 々		

6 傍聴者1名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前々回及び前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・教職員の夏期研修について、花山教育指導課長から説明

<参照：参考資料1>

(質疑)なし

○日程第3 報告第12号 臨時代理につき承認を求めることについて(熱中症予防・対応マニュアルの改定について)

・熱中症予防・対応マニュアルの改定について、花山教育指導課長から説明

<参照：議案書p1、別冊1>

(質疑)

吉尾委員：マニュアルは重要であるが、子どもたち一人ひとりの生活や体調の状態は異なるため状況を適切に見極めることが必要である。各校への周知を求める。また、資料5ページの連絡体制について、対応の優先順位は設けられているのか。

花山課長：今年度から複数の救急車が必要な場合は消防本部の警防課に連絡し、先に救急車の手配をすることが加わった。救急隊の要請があった場合、市教委から秘書課にも連絡する流れになっている。

吉尾委員：事案発生現場において、時間や症状を記録する人は必要だろう。記録の徹底について、各校への周知を求める。

レイノルズ委員：本年度の熱中症に関する事例があれば共有されたい。WBGTが31度以上であれば活動を中止するとのことなので、今後その予測がある場合は教えていただきたい。7月、8月の対応は、その都度判断するのか、それとも現場で一定の基準を設けているのか。

花山課長：本日までに小学校において軽症2件の熱中症報告がある。警戒アラートについては7月7日に発表済である。夏休みの活動においては、WBGTが31度を超えた場合に活動中止とする基準を設け、判断している。

レイノルズ委員：7月、8月は運動を控えなければならない日が増えると予測されるのか。

花山課長：昨年度も午前中はWBGTが31度を超えない日が多かったので朝の涼しい時間帯に交代で体育館も使用した。

レイノルズ委員：エアコンの設置も夏休みの間も使えるように、前倒しで進めていただいたり、他施設の体育館を活用する連携がなされていると聞いている。

飯島委員：マニュアル作成により教職員が子どもたちの体調変化に注意を払うことは重要であるが、子どもたち自身が体調不良を速やかに教職員へ報告できるような体制づくりが必要である。

中川委員：短縮授業実施日においては、暑い時間帯の下校となるため、帰宅時に子どもたち自身で体調管理ができるよう先生方にご指導いただきたい。

原井教育長：9月に入るまでは午前中に帰ることになる。予防策として、最も暑くなる午後2時から3時までに下校させる。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第13号 令和7年生駒市議会第4回（6月）定例会提出議案の結果について

・令和7年生駒市議会第4回（6月）定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p2>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第22号 生駒市文化財保護審議会への諮問について

・生駒市文化財保護審議会への諮問について、甫田生涯学習課長から説明

<参照：議案書p3、資料1～2>

（質疑）

レイノルズ委員：貴重な有形文化財がふるさとミュージアムに展示されているが、今後どのように扱うのか。

甫田課長：指定文化財として登録するものである。

レイノルズ委員：指定文化財に登録すると、具体的にどうなるのか。

甫田課長：これまでは資料として展示していたが、今後は生駒市として長期的な保存と保全を積極的に進められるようになる。

飯島委員：市の文化財として指定することにより、次世代への継承の意志が明確になる。価値あるものとして、見学者の理解も深まるだろう。子どもたちにとって、庶民の日常生活に関する文化財があれば、江戸時代後期の暮らしを知る重要な手がかりになる。教育的な価値を高める活用を望む。

吉尾委員：高山村や俵口など身近な地名、中谷吉兵衛氏の言葉などからも文化財を近く感じる。教科書にあるものだけでなく、地域の歴史に関心を持つきっかけになると思われる。今後、学校や市民に周知され、身近なものとして指定文化財に関心を向ける取組に期待したい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6号 議案第18号 令和7年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

・令和7年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、松田教育部長から説明
<参照：議案書p4、別冊2>

(質疑)

原井教育長：委員の意見を踏まえ、60箇所の修正を実施した。

吉尾委員：特に問題は無い。評価が年々分析的になってきている印象がある。現時点の事業を冷静に評価することは容易ではないが、客観的に分析する力が着実に向上していると感じている。

飯島委員：内容よりも、表現面を中心に指摘した箇所を修正いただいた。毎年点検評価が発表されているが、十年前と比べて大きく改善され、非常に分かりやすくなっている。第三者にも理解できるよう整理し、記述することで、担当者が次年度に取り組むべき課題が明確になるだろう。

吉尾委員：各課との連携が感じられる。今後も連携を意識して取り組んでほしい。部活動の地域移行なども含め、今後そのような事例が増えていくため、そうした視点を評価へつなげてほしい。

原井教育長：この機会を通じ、多くの気づきを得ることができた。今年度の取組に今回の点検評価を反映させていく。

審議結果 【継続審議】

○その他

・生駒南小学校・生駒南中学校整備事業について、山本教育総務課長から説明
(質疑)なし

・認定こども園壱分こども園整備経過報告と今後の予定について、澤辺こども園準備室長から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

中川委員：アスベストの有無についてはどうなっているのか。仮歩道の設置も考えられるが、高齢者や乳母車の通行が困難な場合もあるため、その点にも配慮が必要だ。

澤辺室長：アスベストは内壁および外壁に含まれていると想定しているため、まず建物外側の屋根などを取り外し、足場で囲って作業を行う予定である。アスベストについては、専門家の立会いのもと、他の職員が立ち入らないよう

に対応し、別途進めていく。仮歩道については、擁壁の上に園舎が建っており、歩道は確保されているため設置の予定はない。交通の安全確保はガードマンが担当する。

吉尾委員：現時点での進捗状況はどうなっているのか。

澤辺室長：6月下旬より電気・水道・ガスの切替作業と工事事務所の設置を行った。7月からはフェンスの内側に防音シートを張り、高さが必要な箇所については約3メートルの壁を設置し、周囲に影響が出ないように配慮している。先週時点では足場の組立は完了しておらず、問題のない箇所の内壁の壁紙やボードを取り外した段階で、今後囲う作業に入る状況である。

・生駒市不登校支援の現状と今後の支援について、花山教育指導課長から説明

<参照：その他資料2>

(質疑)

原井教育長：生駒市の不登校の現状と今後の方向性を踏まえ、教育委員会では学びの多様化学校を一つの選択肢として創設する必要があると考え、視察を実施している。委員からの意見を伺いたい。

飯島委員：不登校の子どもに対応しつつ、高校進学に対応したカリキュラムを導入する点に多様性を感じる。14ページの先進地視察において、人員不足の事例はあったか。

花山課長：県から教員の加配があるため、人員が不足している状況ではない。

原井教育長：学びの多様化学校は、本校として独立して開設する場合と、既存の本校の分校として開設する場合があります。教員は児童生徒数に応じて配置される。いきいきほっとルームやのびのびほっとルームは居場所であり授業は行っていない。学びの多様化学校のカリキュラムは、通常学級より柔軟な教科構成および授業時間となる。多様な子どものニーズに応える学校を創設したい。

中川委員：本市としての不登校に関する主な課題は、1つは不登校の取組へのより深い対応であり、もう1つは不登校の子どもたちの選択肢を広げる為の学力・進学への取組である。不登校の子どもたちを取り巻く環境が多様化・複雑化する中で、その解決に向けた取組も改善がなされ続けている。今では、学校内での分析・取組ばかりでなく、心理学的・法律的等多様な方向からの分析・対応がなされている。子どもの未来をどう描いて、どう支えるかを、現状を踏まえながら取り組む為には、教師ばかりでなく臨床心理士やスクールソーシャルワーカーや弁護士など、それぞれの子どもを持つ課題に対して、色々な専門家が深い専門性を持って、チームとして取り組むことが必要である。この新しい学校が、1人1人の子どもたちへの対応のコーディネーター的な役割を担い、様々な専門家の力を有効に生かす中心となって、不登校の子どもたちへのより深い取組を進めていただきたい。

2つ目の、子どもたちの学力・進学機会の保障については、不登校の子どもたちの個々の現状に合わせて、その学校らしく柔軟な学習形態や方法を進めてほしい。また、現状の公立学校では難しい不登校の子どもたちへの学習の評価や進学に向けての手続き等についても、保護者等とも、柔軟に、根気よく取り組んでほしい。

吉尾委員：一人一台端末やリモート授業の導入により、学び方の多様性が広がっている。いきいきほっとルームやのびのびほっとルームに、学校機能が加わる認識でよいか。

花山課長：その通りである。子どもの状態は個々に異なるため、学びの多様化学校においても居場所感や居心地の良さが重要な要素になる。

吉尾委員：13ページの不登校支援に関するニーズ調査の保護者のアンケートの回答では48%が「情報次第では検討したい」と回答している。半数近くの人が情報を求めており、学びの多様化学校に対する期待と不安を抱いている。不安や悩みを持つ保護者が納得し、子どもが「通いたい」と思える学校を目指すべきだ。多様な学びの存在を知らせる情報発信が必要だ。

レイノルズ委員：学びの多様化学校に加え、8ページに記載の校内サポートルームの充実について、令和8年度以降全校設置を目指すとする。自分の学校に居場所があることは重要なので、推進してほしい。ただし、ここでは教育的指導が行われていないため、授業の遅れや中学生においては内申に反映されにくい課題がある。このことから、学びの多様化学校の設置が検討されていると理解している。対象は小中学校の9年間であり、年代ごとに人数の差が生じるだろう。中学校では手厚い学習支援が必要となるため、どうつなげるかが大きな課題である。先進校を参考に進めていると認識している。最初から通う子どもは少なく、段階的に通うことになる児童生徒もいると思われる。そうすると、定員やキャパシティの検討が必要ではないか。県からの教員配置は、何人に一人の割合になるのか。令和8年度以降のスケジュールを把握したい。

花山課長：先進地視察では、入校前に保護者との面談を実施し、入校するかどうかを決定する事例が多かった。誰でも入学できるわけではない。先進地では、学びの多様化学校への出席率が高い。設立については令和9年度を目指している。

原井教育長：いきいきほっとルーム、のびのびほっとルームとの違いや、規模、場所などの情報が不足している。学校設立は生駒市にとって大きな事業となるため、総合教育会議にて有識者とともに学びの多様化学校について詳しく学ぶ機会を事務局で計画したい。

飯島委員：13ページの不登校支援のニーズ調査において、半分が情報次第で検討とあるが、この情報次第とは何かを考えた。受け皿としてののびのびほっとルームやいきいきほっとルームなどが現在あるが、今後は不登校支援の受け

入れ文化を作っていく必要がある。不登校支援を受けていない子どもたちにも不登校の状況を理解してもらうことが重要である。学びの多様化学校設立と並行し、この学校を受け入れる文化を保護者や教員に根付かせるよう事務局に働きかけてほしい。

原井教育長：第2回教育フォーラムでは、不登校支援をテーマに据え、11月30日に開催を計画している。多様な立場の意見を取り入れながら、生駒市として進むべき方向を検討していきたい。

- ・令和7年8月行事予定について、山本教育総務課長、甫田生涯学習課長から説明（質疑）なし

○閉会宣告

午前10時46分 閉会